

授業科目名	【G】 教養講義(学校臨床心理学)		区分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2	
			選択					
科目区分	基本科目:【G】							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	心の健康のための心理学				担当者	田中 將之		
授業概要	【概要】	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学に関する代表的な研究者(例えば, Freud, Jung, Adler)の諸学説を、心理教育的観点から修得する。 ・グループワークなどの活動を通して実践的感性を養い、人間心理への教育的理解の深化を図る。 						
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・人間心理に関する多様なものの見方・捉え方を学び、今後の人生にどう活かすかのヒントを得ている。 ・人間関係を良好なものにするための技法の基礎を理解している。 						
履修条件	・ 特になし							
アクティブラーニングの方法	【-】	事前学習型	【-】	反転授業	【-】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【-】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【○】	ロールプレイ
	【-】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との関連性	・特にないが、学校に関わるという意味で、教職論、教育心理学と関連する部分はある。							
教科書	・特に、指定しない。							
参考書	・授業中にプリントを配布する。							
評価方法	授業中に指示するレポート・テスト(70%)、受講意欲・グループワーク等に取り組む姿勢・態度(30%)で評価する。なお、予告せずにノート提出を求めることがあり、それもまた評価の対象とする。							
フィードバック方法	レポートについては、提出期間経過後に、評価ポイントを学生に伝える。テストを行う場合は、解説を行う。							
評価基準	S・A: 授業内容をよく理解しており、応用力もある、B: 授業内容を理解している、C: 最低限の基礎力を備えている、D: 基礎力が不足している、E: 基礎力が著しく不足している、F: 評価不能。欠席時数過多やテストを未受験の場合は、F評価とする。							

授業科目名	【G】 教養講義（ 学校臨床心理学 ）	区分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
		選択				
授業回数	授業内容					
1	ガイダンス 臨床心理学とはどのような学問か 予習： 心理学とはどのような学問か，予習をしておく。 復習： 臨床心理学の概要を整理し，まとめておく。					
2	臨床心理学・精神医学の歴史Ⅰ - 古代ギリシア・ローマの医学 - 予習： ヒポクラテス，ガレノスの考え方を調べておく。 復習： 中世までの精神疾患の捉え方をまとめておく。					
3	臨床心理学・精神医学の歴史Ⅲ - 脳科学と精神医学の発展 - 近代の精神医学の歴史について調べておく。 復習： 脳科学の発展が何をもたらしたか，確認しておく。					
4	フロイトの精神分析Ⅰ - フロイトの心的局所論，心的構造論 - 予習： 心的局所論，心的構造論について調べておく。 復習： フロイトは心をどうとらえていたか，確認しておく。					
5	フロイトの精神分析Ⅱ - 無意識（錯誤，夢） - 予習： 無意識の現れとされるものを調べておく。 復習： 夢，錯誤，ヒステリーについて確認しておく。					
6	フロイトの精神分析Ⅲ - 無意識（夢の持つ意味），自由連想法 - 予習： 自由連想法とはどのようなものか，調べておく。 復習： フロイトの精神分析の方法論を確認しておく。					
7	ユングの分析心理学Ⅰ - コンプレックス - 予習： ユングのコンプレックスに関する考え方を調べておく。 復習： 様々なコンプレックスに関する学説を確認しておく。					
8	ユングの分析心理学Ⅱ - フロイトとの決別と集合的無意識 - 予習： ユングが，なぜフロイトと決別したのか調べておく。 復習： フロイトとユングの学説の違いを確認しておく。					
9	ユングの分析心理学Ⅲ - 元型 - 予習： ユングのいう元型とは何か，調べておく。 復習： 集合的無意識について確認しておく。					
10	アドラーの個人心理学Ⅰ - 自己決定論 - 予習： アドラーの自己決定論を調べておく。 復習： 環境や過去にとらわれない未来志向の心理を復習しておく。					
11	アドラーの個人心理学Ⅱ - アドラーは劣等感をどう捉えたか - 予習： アドラーの劣等感に対する捉え方を調べておく。 復習： 劣等感について，ポジティブな面を確認する。					
12	アドラーの個人心理学Ⅲ - 勇気づけとは何か - 予習： アドラーがいうところの勇気づけとは何か，調べておく。 復習： 勇気づけの持つ意味を確認する。					
13	カウンセリングの技法Ⅰ - 傾聴とは何か - 予習： 傾聴の方法について調べておく。 復習： 傾聴の方法について，確認する。					
14	カウンセリングの技法Ⅱ - 共感的理解の必要性 - 予習： 共感的理解とは何か，調べておく。 復習： カウンセリングの技法の要旨を確認する。					
15	本授業のまとめ テスト 予習： これまでの授業の要点について総まとめをしておく。 復習： テストで出た内容について，再度確認をしておく。					
その他	・アクティブラーニング型授業（グループワーク等）を行う場合，主体的な参加が求められる。 ・授業の順序，内容については学生の反応を見極め，変更を行う場合がある。 授業ごとの予習・復習時間は，各120分程度を目安としてください。					